

# 大井城跡発掘調査報告書Ⅱ

1996年3月

島根県斐川町教育委員会

## 正 誤 表

訂 正 箇 所	誤	正
目次 7行目	Ⅲ. 層位と遺物の出土状況	Ⅲ. 層位と出土遺物
目次 9行目	V. 出土遺物	V. 遺物
P. 2 第1図	大井周辺郭位置図	大井城跡周辺郭位置図
図版 P L. 4	大井城跡調査区位置図	大井城跡・1区

大井城跡発掘調査報告書Ⅱ

# 大井城跡発掘調査報告書Ⅱ

1996年3月

島根県斐川町教育委員会

# 序 文

島根県の宍道湖南西岸に所在いたします斐川町では、島根県の玄関口ともなる出雲空港を抱え、ゴルフ場建設や湯の川ヘルシータウン計画などのリゾート開発が急激に進んでおります。

その一方で先人の残してくれた貴重な文化遺産が確実に破壊される危機に瀕しているのも事実であります。

開発に伴い、埋蔵文化財の発掘調査件数も比例して増加しておりますが、私たちは、このような文化財を守り、後世に伝えていかなければなりません。

この発掘調査によって得られる「先人の足跡」を皆様にご理解いただき、私たちのまち斐川町の過去の姿に思いをはせていただければ、幸いと存じます。

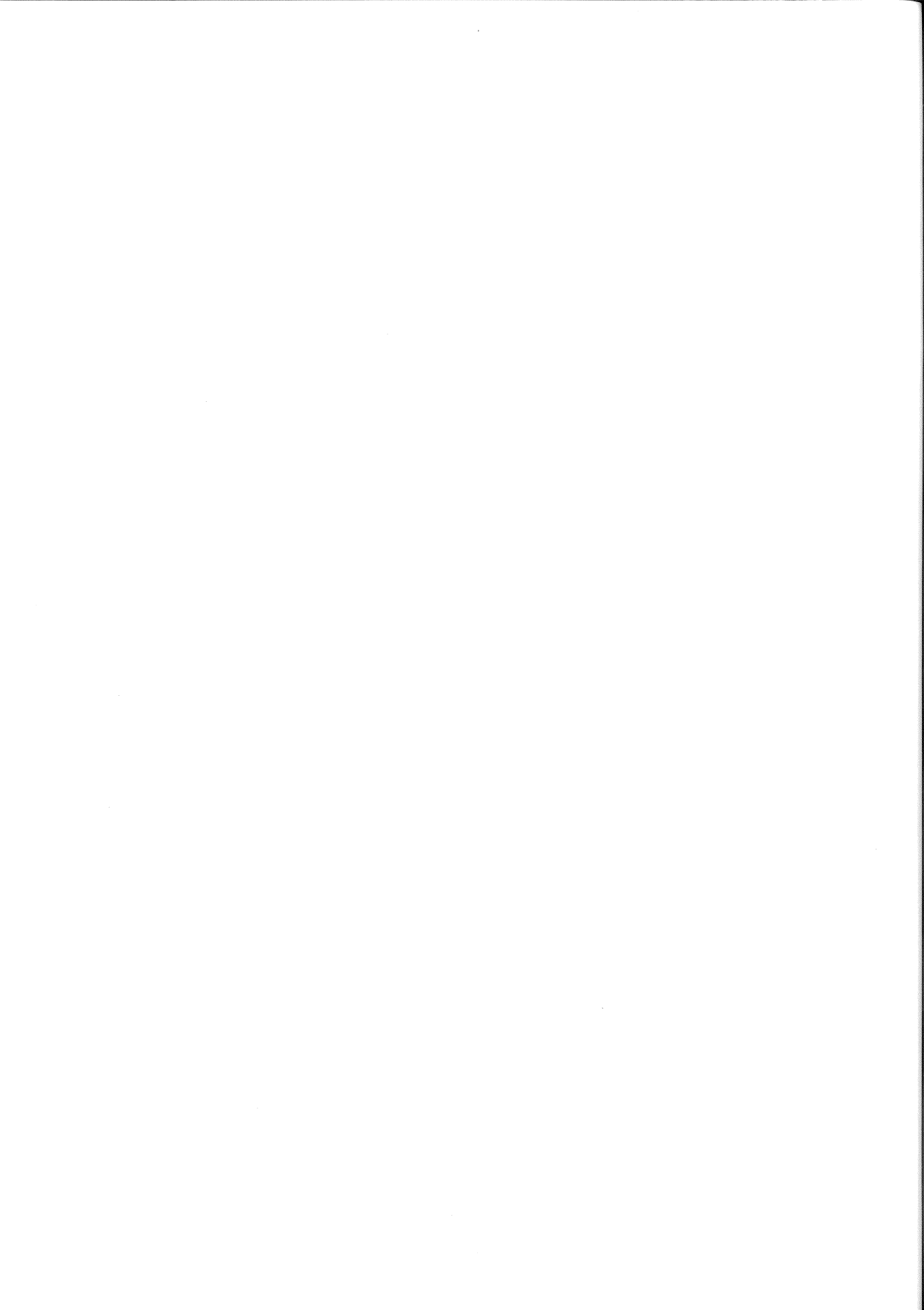
末筆ではございますが、この調査にご指導・ご協力・ご理解を頂きました皆様に対して、厚く御礼申し上げますとともに、今後とも文化財行政になお一層のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年3月

斐川町教育委員会

教育長 杉 谷 光 昭





# 例 言

1. 本書は斐川町教育委員会が福島玉造氏から委託を受けて約50㎡を対象に実施した観音像建立工事に伴う大井城跡発掘調査報告書である。
2. 調査地は下記のとおり。  
島根県簸川郡斐川町大字学頭1463-43番地
3. 調査組織は下記のとおり。  
事務局 富岡俊夫（斐川町教育委員会文化課 課長）・昌子裕江（同 主任）・梶 由喜子（同 職員）  
調査員 松本堅吾（斐川町教育委員会文化課 主事）・陰山真樹（同）  
遺物整理 内田久美子（斐川町教育委員会文化課 職員）・青木由美（同）  
・大田晴美（同）
4. 調査は平成 7年11月21日より着手し、同12月 7日に終了した。
5. 調査の実施にあたっては、宍道年弘・四方田三己（以上 斐川町教育委員会 文化課）・常松幹夫（同 生涯学習課）・昌子滝市・昌子健二郎・池田良・諸氏らの協力を得た。  
また、西尾克己氏（島根県埋蔵文化財調査センター）からも有益な助言・協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。
6. 執筆・編集・遺物実測・トレースは松本・陰山が協議して行なった。
7. 出土遺物の写真は安食 繁氏の協力を得た、記して感謝の意を表する次第である。

## 凡 例

1. 図中の方位は基本的に磁北をあらわしている。ただし、挿図第1図と図版 PL.1・2 は座標北を表している。
2. 本文および図版中の示したレベル高は、すべて T.P.+値 (m) であるが T.P.+ は省略している。
3. 遺物番号は挿図と写真図版で統一している。
4. 文化財一覧表と PL.1 の番号は一致させた。
5. 本書で使用した土壌色は、小山正忠・竹原秀夫編著『新版標準土色帖』1988を用いて命名しているが、本文中は色相・明度・彩度の数値を省略している。

# 挿図目次

第1図	大井城跡周辺郭位置図	2
第2図	大井城跡調査区地形図	3
第3図	1区焼土土坑平面図・断面図	4
第4図	1区出土の瀬戸系灰釉平茶碗	5
第5図	1区出土の鉄釘	5

# 図版目次

P L. 1	斐川町の文化財
P L. 2	大井城跡調査区位置図
P L. 3	大井城跡調査区平面図・断面図
P L. 4	大井城跡・1区
P L. 5	大井城跡2区・3区
P L. 6	大井城跡1区・2区
P L. 7	大井城跡2区・3区
P L. 8	大井城跡1区焼土土坑
P L. 9	大井城跡遺物出土状況・出土の遺物
P L. 10	大井城跡出土の遺物
P L. 11	大井城跡出土の遺物
P L. 12	大井城跡出土の遺物

## I. 調査に至る経緯（第1図）

大井城跡は、昭和56年6月2日の島根県教育委員会による分布調査で確認された中世の城跡である。

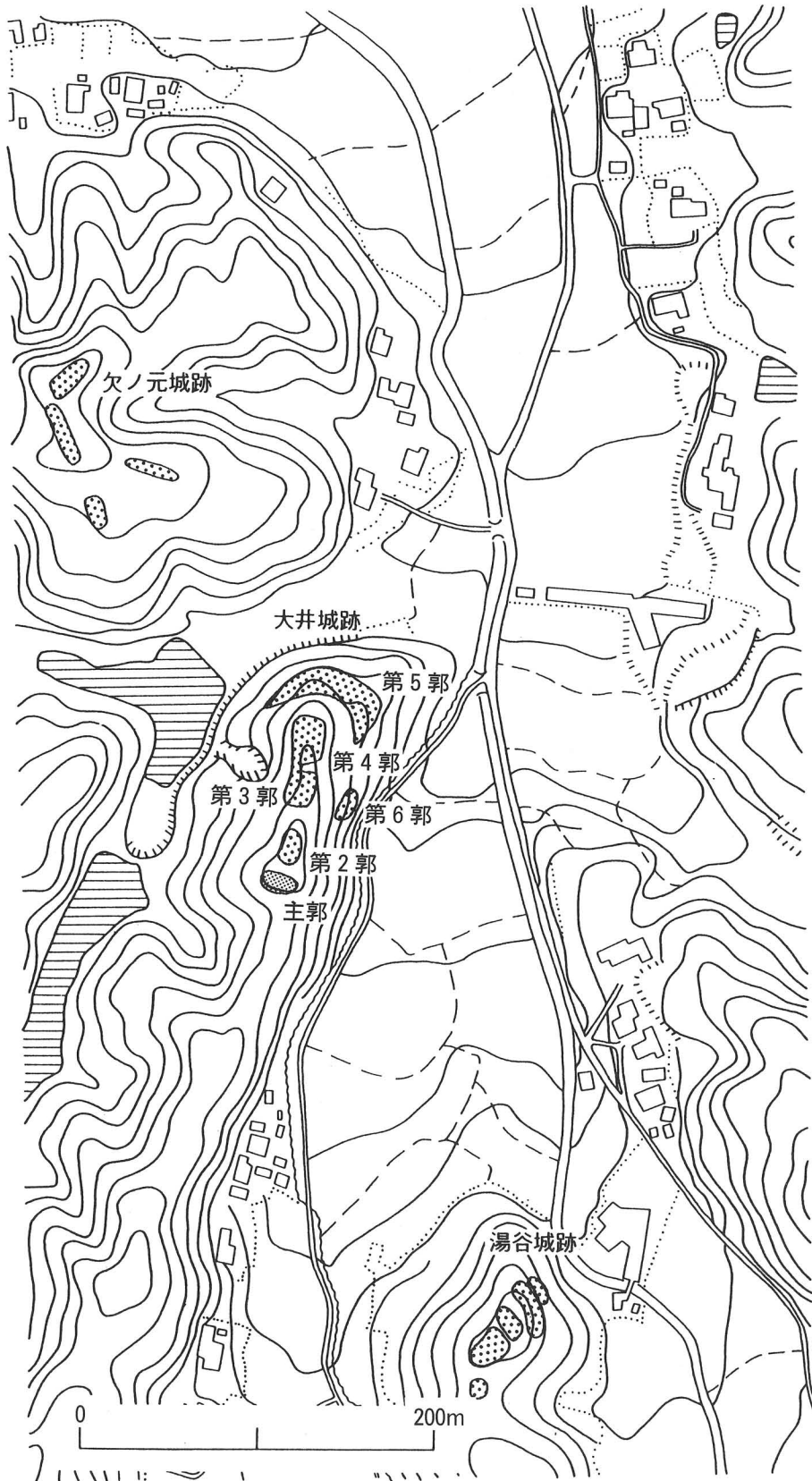
大井城についての記録は、全く残されておらず、大井城が存在した時期と考えられる鎌倉時代から室町時代にかけての周辺を知るための史料も数少ない。

鎌倉時代頃のことは、文永8年（1271年）の「杵築大社御三月会相模舞御頭役結番事」（『千家家文書』）によって、健部郷に桑原氏、羽根保に西牧氏のそれぞれ両地頭がいたことをこの文書の中でうかがい知ることができる<sup>①</sup>。また室町時代である応永19年（1412年）の「足利義持安堵状」（『羽根文書』）の中には、羽根保地頭職の半分が塩冶駿河小次郎詮清の所領であったことが記載されている<sup>②</sup>。

もちろん、これらの史料だけでは、周辺を知るための手がかりとして必ずしも十分とは言えない。しかし、これはあくまで推測の域であるが、大井城の城主が健部郷か羽根保の領主に関係するのではないかと憶測することが出来る。

昭和57年1月14日から6月25日までの約5ヵ月にわたり、斐川町教育委員会が住宅団地の造成工事に伴い、発掘調査を実施した結果、大井城の第2郭から第6郭までの存在が確認され、遺構としては土塁1、建物跡2以上、通路1などが検出された<sup>③</sup>。建物の大きさや数、出土遺物は生活用品が少ないという点から判断すると、城は人々の平常時の生活空間ではないと思われ、谷筋の平地で「本屋敷」「会所」などの屋敷や集会所の存在の名残を感じさせる屋号が見受けられることから、普段はそこで生活し、臨戦体制下になると城に籠もったと考えられている。さらに、室町時代後半以降には、大井城の山城としての機能は失われていた可能性が非常に強い。

今回は、観音像建立工事に伴い、昭和57年当時に第1郭（主郭）と推定されながら、調査対象範囲外であったために調査がなされなかった地区についての発掘調査を実施した。



第1図 大井周辺郭位置図

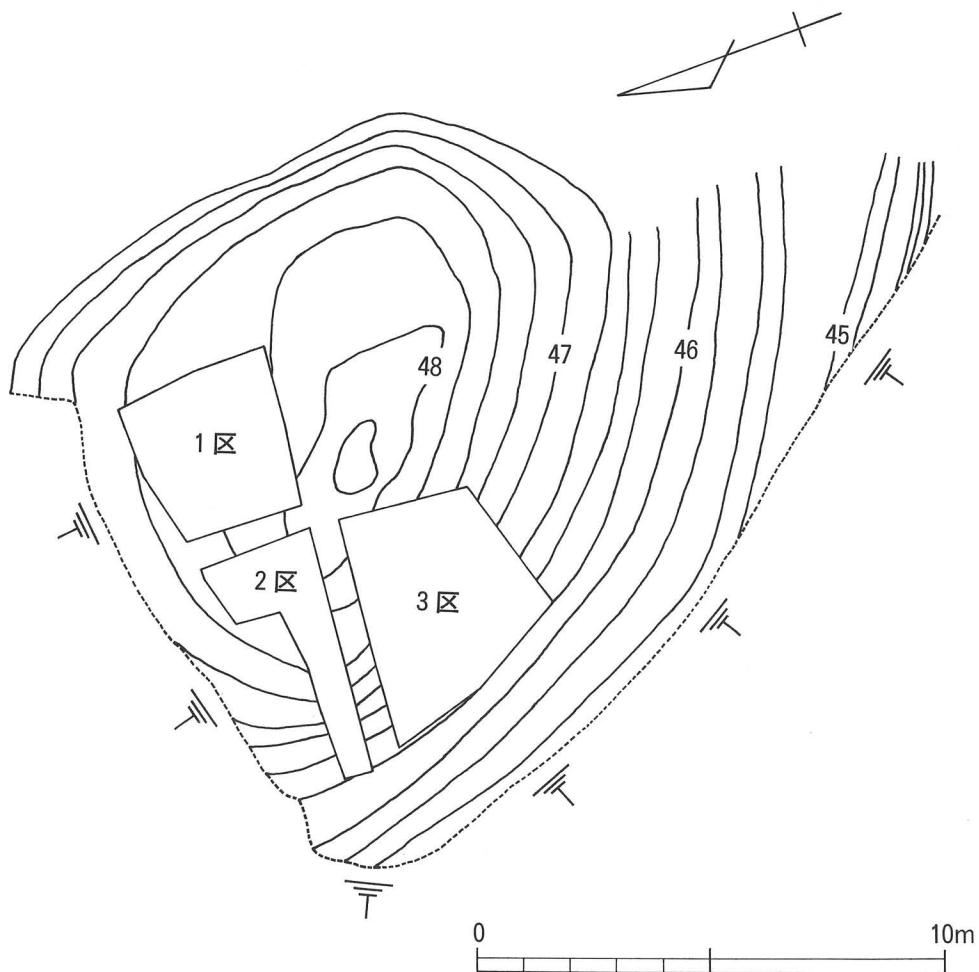
## II. 位 置 (PL. 1・2)

大井城跡は、宍道湖の南西岸に位置する簸川郡斐川町の南東部に立地する。

平成7年度の調査区は、標高が約48mの低丘陵上で、昭和56年度から昭和57年度にかけて実施された調査によって第1郭（主郭）と推定されており、大井城跡の最南端に位置する。

北側には、全長57mの前方後円墳である神庭岩船山古墳（島根県指定文化財）や、軍原古墳などの古墳時代中期の古墳が存在する。

また、南には、古墳時代から奈良時代にかけて、営まれた集落と考えられる大倉IV遺跡があり、この辺りは古代から、ひらけた土地であったと思われる。



第2図 大井城跡調査区地形図



### Ⅲ. 層位と出土遺物 (PL. 3、PL. 6・7)

3区については、約5cmの表土を除去すると堅くしまった地山が露呈するが1区・2区に関しては、北側に向かって表土と地山の間は何層かの層位が形成されており、地形的には1区と2区東側の一部までのところで平坦面を成している。

この平坦面は、自然の堆積で出来たものなのか、人為的に盛土されたものか明確にはわからないが、尾根上という地形から考えると自然の堆積とは考え難い。19層・20層のレベルより出土した遺物から判断すると、中世頃に整地されたと考えるのが自然であろう。

また、遺物はすべて1区で認められ、ほぼ同じレベルから出土した。

1区・2区の遺構検出は、単純な堆積層が見受けられず、ベース面の設定に困難を極めたが、第Ⅰ面と第Ⅱ面の計2面で行なうこととした。

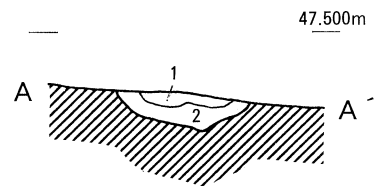
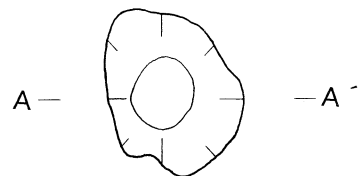
第Ⅰ面は4層・9層上面のレベルで設定しここからは、焼土土坑が一つ確認された。

最終的に1区・2区とも、地山面まで掘削し、第Ⅱ面の遺構検出を試みたが、遺構は認められなかった。

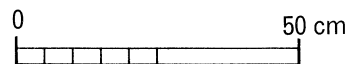
### Ⅳ. 遺構 (第3図、PL. 8)

遺構としては、1区において焼土土坑が一つ検出された。

形は、不整形で長径30cm、短径20cmの規模をもち、最深部は6cmを測る。埋土は、上層から炭を多量に含んだ層厚2cmを測る黒褐色



- 1 5YR 2/1 黒褐色土 (炭を多量に含む)
- 2 5YR 4/2 灰褐色土 (地山ブロック含む)



第3図 1区焼土土坑  
平面図・断面図

土と1 cm～3 cm大の地山ブロックを少量含み層厚4 cmを測る灰褐色土の2層で構成されている。

残念ながら、遺構内に遺物が認められなかったために時期は不明である。

## V. 遺物 (第4図、第5図、PL. 9～12)

遺物はすべて1区より出土した。

内容としては、瀬戸系灰釉平茶碗(3点)や陶器(11点)、鉄釘(1点)である。

いずれも、中世ごろの所産と考えられる。

なお、第4図・第5図には、図化に耐えうるもののみを載せた。

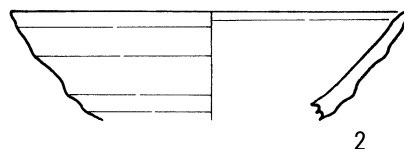
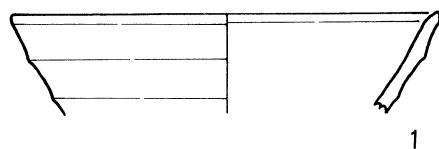
1・2は瀬戸系灰釉平茶碗である。

1は、復元口径が15.4cmで、釉薬が施されており、外面は淡緑色、内面は黄緑色を呈する。わずかに内湾しながら口縁部に向かって立ち上がり、口縁端部は尖っている。

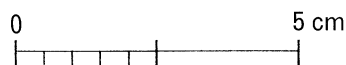
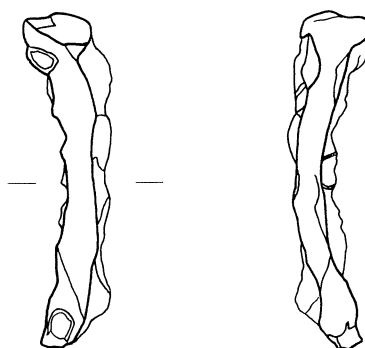
2は、内外面ともに、淡緑色の釉薬が施され1と同じく、ゆっくりと内湾しながら口縁部に向けて立ち上がり、口縁端部は尖ったつくりである。復元口径は14.2cmを測る。

3は、鉄釘である。

断面は方形を呈し、頭部は折り曲げられて平坦をなす。全長5.9cm、頭部径1.2cm、厚さ8 cm、重量は10.35 gを測る。検出時点でかなりの錆化が認められた。



第4図 1区出土の瀬戸系灰釉平茶碗



第5図 1区出土の鉄釘

## VI. ま と め

今回の調査区は、大井城の第1郭（主郭）と推定されていた地区であったが調査対象面積が狭かったこともあり、特に、城郭に関連するような遺構は確認されなかった。しかし、第1郭（主郭）と断定できるような判断材料は認められなかったものの、出土した遺物は、すべて昭和57年に実施された調査によって確認された遺物と内容的には同じで、15世紀頃のものと考えられる。

それゆえ、大井城の第1郭（主郭）かどうかは別として、大井城に関連する何らかの施設であったと憶測することが出来る。

第2郭から第6郭までは現在、住宅団地の造成工事によって消滅してしまっているが、今回、唯一残されていた当該地区の調査が出来たことは幸いであろう。

大井城跡の郭とみなされた部分の調査は、一応の終止符を打ち、データはかなり蓄積されたといえるが、大井城の全容を解明するためには、今後のなお一層の調査・研究が必要と思われる。

### 註

- ① 斐川町史編纂委員会『斐川町史』（1972）
- ② ①に同じ
- ③ 斐川町教育委員会『大井城跡発掘調査報告書』（1983）

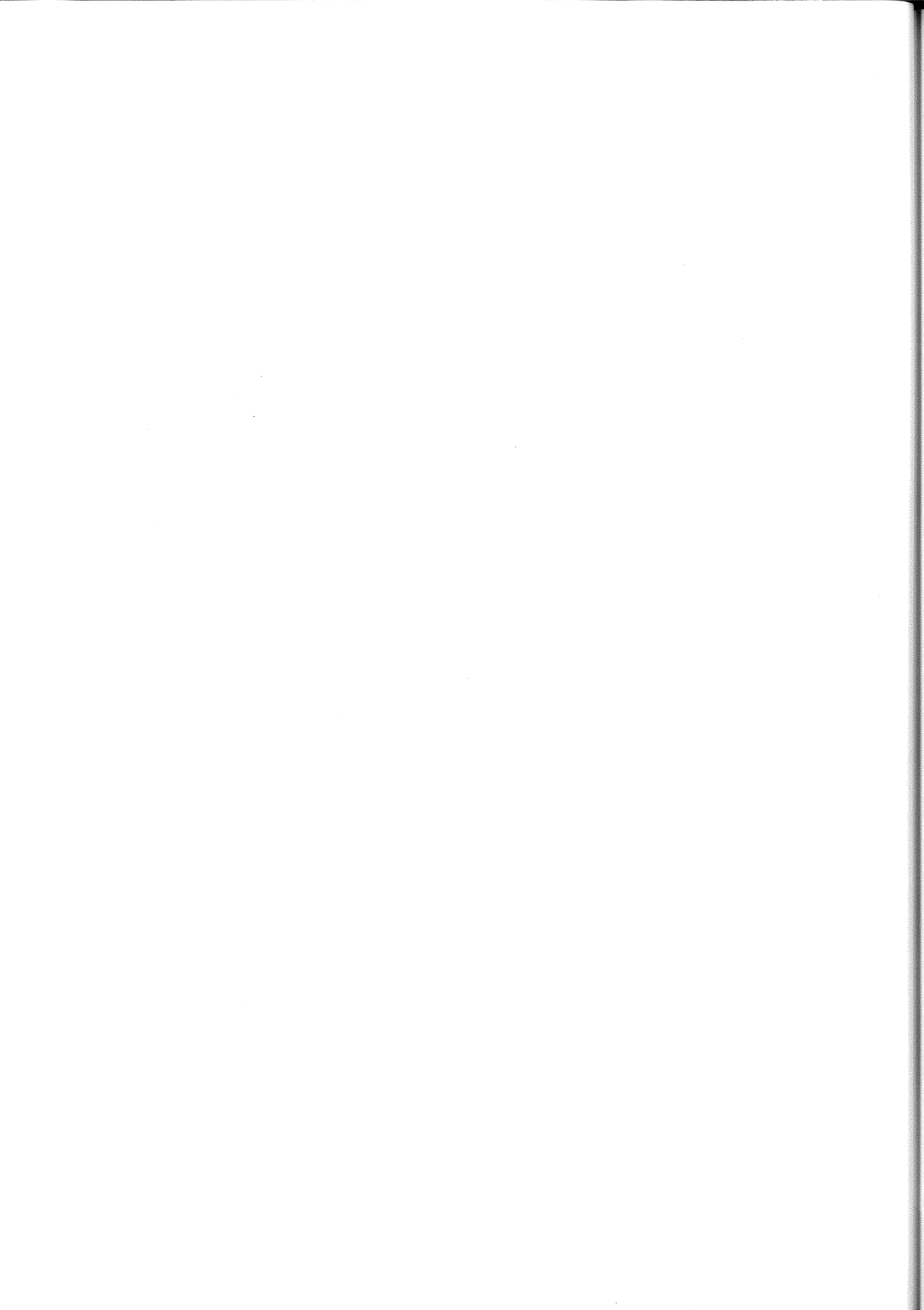
## 文化財一覽表

遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称
1	平野 I 遺跡	36	上学頭古墳群	71	石橋古墳群
2	軍原古墳	37	軍原千人塚古墳	72	堀切古墳群
3	軍原丘上古墳群	38	鍛冶屋横穴	73	堀切 I 遺跡
4	大井城跡	39	西光院横古墳	74	堀切 II 遺跡
5	大倉横穴群	40	武部西古墳群	75	堀切 III 遺跡
6	小丸子山古墳	41	結城古墳	76	新屋敷古墳
7	大井古墳	42	貴船古墳	77	新市 I 遺跡
8	神庭岩船山古墳	43	コモゴ山横穴群	78	新市横穴群
9	神庭古墳群	44	後谷古墳	79	斐川公園内古墳群
10	岩野原古墳群	45	登道古墳	80	平野 II 遺跡
11	剣山横穴群	46	稲城横穴	81	神守古墳群
12	外ヶ市古墳	47	御射山横穴群	82	水室 I 遺跡
13	出西小丸古墳群	48	龜山横穴	83	水室 II 遺跡
14	岩野原横穴群	49	後谷東古墳群	84	神水古墳群
15	稲城古墳群	50	武部東古墳	85	神守 I 遺跡
16	山ノ奥横穴群	51	白塚古墳	86	和西 I 遺跡
17	海の平横穴群	52	水越古墳	87	城山東古墳群
18	八幡宮横横穴	53	城平山城跡	88	外ヶ市 I 遺跡
19	岩樋上横穴	54	城山古墳群	89	神守 II 遺跡
20	岩海横穴群	55	平野古墳群	90	新在古墳
21	岩海古墳	56	三井古墳	91	長者原古墳群
22	高野古墳群	57	結遺跡	92	上出西 I 遺跡
23	武部遺跡	58	西光院裏古墳群	93	上出西 II 遺跡
24	武部西遺跡	59	結西谷 I 遺跡	94	剣先横穴群
25	布子谷古墳	60	結西谷 II 遺跡	95	後谷横穴群
26	横手古墳	61	直江石橋 I 遺跡	96	後谷 I 遺跡
27	下阿宮古墳	62	結西谷古墳群	97	後谷 II 遺跡
28	阿宮公民館後古墳	63	西古墳群	98	後谷 III 遺跡
29	墓田横穴群	64	欠ノ元城跡	99	後谷 IV 遺跡
30	高瀬城跡	65	湯谷城跡	100	神水三ノ田古墳群
31	狼山城跡	66	中前古墳	101	中出西 I 遺跡
32	出西・伊波野一里塚	67	結本谷 I 遺跡	102	山ノ奥 I 遺跡
33	沢田横穴群	68	結本谷 II 遺跡	103	沢田 I 遺跡
34	出西岩樋跡	69	西中学校横遺跡	104	下阿宮 I 遺跡
35	御射山古墳群	70	本谷遺跡	105	下阿宮 II 遺跡

# 文化財一覽表

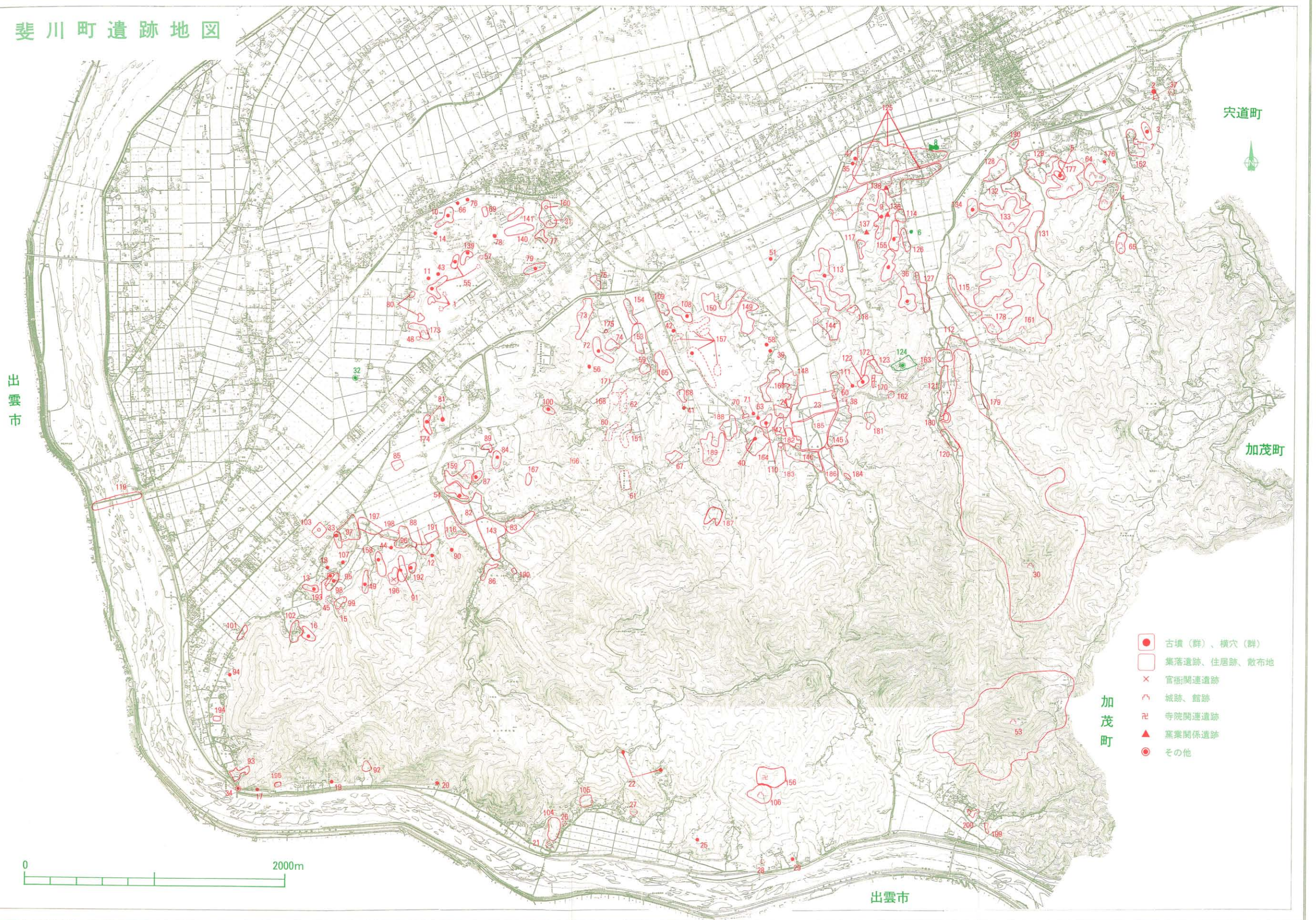
遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称
106	立栗山城跡	137	岡瓦窯跡	172	西谷Ⅱ遺跡
107	後谷町道脇古墳	138	岡田瓦窯跡	173	亀山城跡
108	吉成古墳群	139	平野横穴群	174	神守城跡
109	貴船Ⅰ遺跡	140	新市Ⅱ遺跡	175	堀切瓦出土地
110	古殿古墳群	141	新市Ⅲ遺跡	176	欠ノ元1号墳
111	奥古墳	142	福富遺跡	177	大倉城跡
112	佐利保谷遺跡	143	水室Ⅳ遺跡	178	宇屋谷城跡
113	神庭西谷古墳群	144	三絡Ⅰ遺跡	179	宇屋谷Ⅱ遺跡
114	諏訪神社前遺跡	145	三絡Ⅱ遺跡	180	神庭谷Ⅲ遺跡
115	宇屋谷遺跡	146	三絡Ⅲ遺跡	181	尾田瀬Ⅱ遺跡
116	水室Ⅲ遺跡	147	三絡Ⅳ遺跡	182	三絡Ⅷ遺跡
117	神庭西谷Ⅰ遺跡	148	三絡Ⅴ遺跡	183	三絡Ⅸ遺跡
118	神庭西谷Ⅱ遺跡	149	三絡Ⅵ遺跡	184	奥遺跡
119	斐伊川鉄橋遺跡	150	三絡Ⅶ遺跡	185	三絡Ⅹ遺跡
120	神庭谷Ⅰ遺跡	151	結西谷Ⅲ遺跡	186	三絡Ⅺ遺跡
121	神庭谷Ⅱ遺跡	152	軍原Ⅰ遺跡	187	祇園原遺跡
122	西谷古墳群	153	八斗蒔Ⅰ遺跡	188	結本谷Ⅲ遺跡
123	西谷遺跡	154	八斗蒔Ⅱ遺跡	189	結城跡
124	荒神谷遺跡	155	田中古墳群	190	和西Ⅱ遺跡
125	神庭丘陵北遺跡	156	天寺平廃寺	191	小野遺跡
—1	御射山地区	157	三角点古墳	192	押屋古墳群
—2	岡地区	158	稲城丘陵古墳群	193	後谷丘陵古墳群
—3	中溝地区Ⅰ	159	城山城跡	194	中出西Ⅱ遺跡
—4	中溝地区Ⅱ	160	狼山土師器出土地	195	海の平遺跡
126	上学頭Ⅰ遺跡	161	鷹の巣城跡	196	郡家(長者原)推定地
127	上学頭Ⅱ遺跡	162	尾田瀬遺跡	197	後谷Ⅴ遺跡
128	大倉Ⅰ遺跡	163	佐利保谷Ⅱ遺跡	198	稲城遺跡
129	大倉Ⅱ遺跡	164	結南遺跡	199	上阿宮Ⅰ遺跡
130	大倉Ⅲ遺跡	165	直江石橋Ⅱ遺跡	200	上阿宮Ⅱ遺跡
131	大倉Ⅳ遺跡	166	有馬谷遺跡		
132	綿田原Ⅰ遺跡	167	有馬谷Ⅱ遺跡		
133	綿田原城跡	168	三井Ⅰ遺跡		
134	綿田原古墳群	169	門原池遺物散布地		
135	三分市館跡	170	西谷池遺物散布地		
136	寿山窯跡	171	三斗蒔遺跡		

# 版 圖





斐川町遺跡地図



- 古墳(群)、横穴(群)
- 集落遺跡、住居跡、散布地
- × 官衙関連遺跡
- ⬠ 城跡、館跡
- ⊠ 寺院関連遺跡
- ▲ 産業関係遺跡
- 其他

0 2000m

出雲市

宍道町

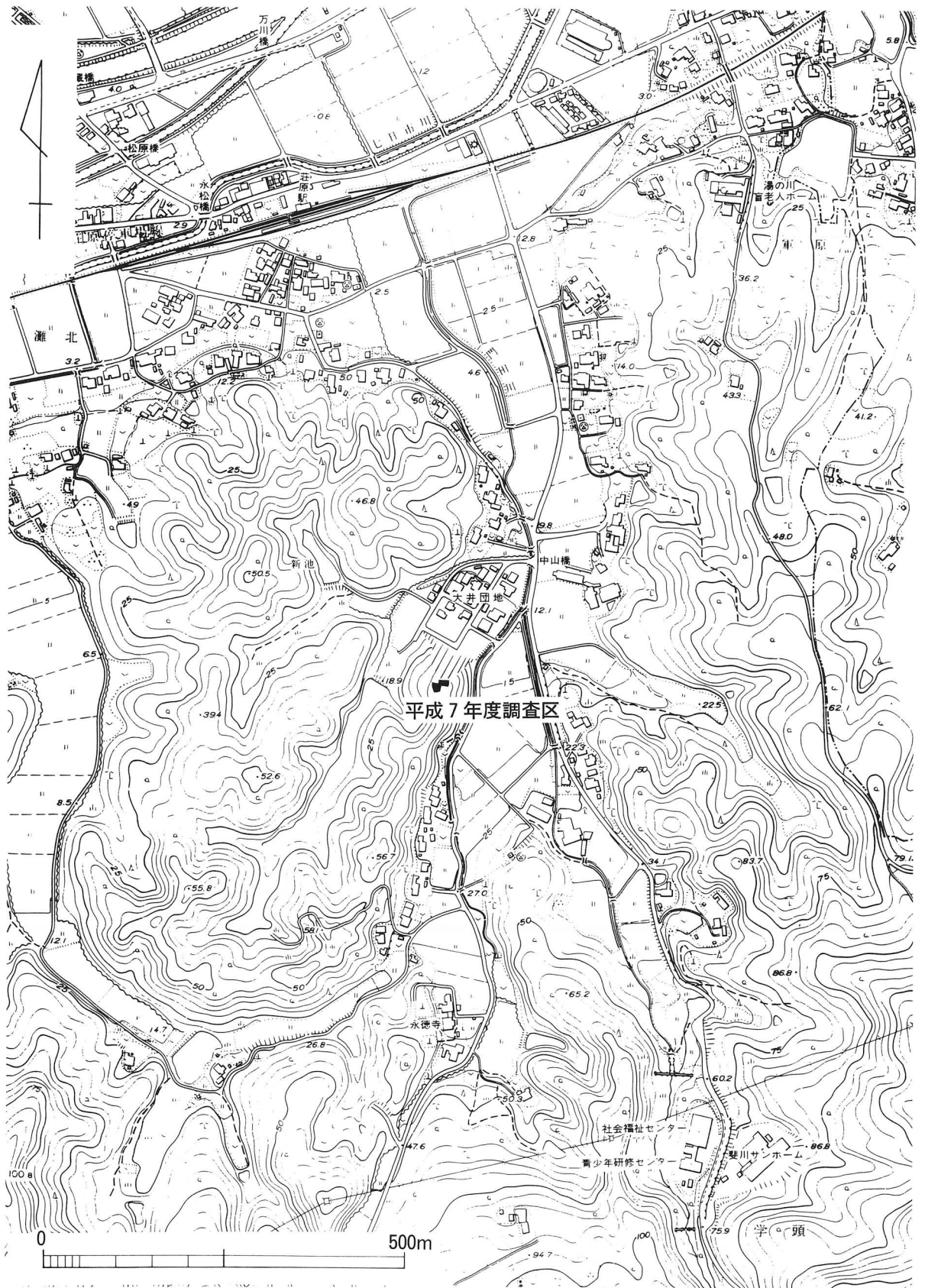
加茂町

出雲市

加茂町

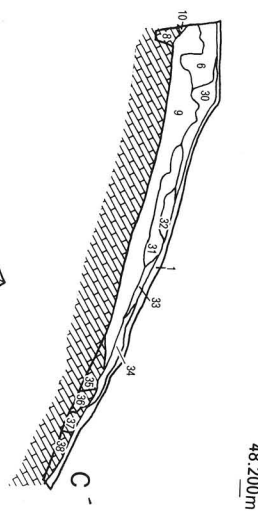
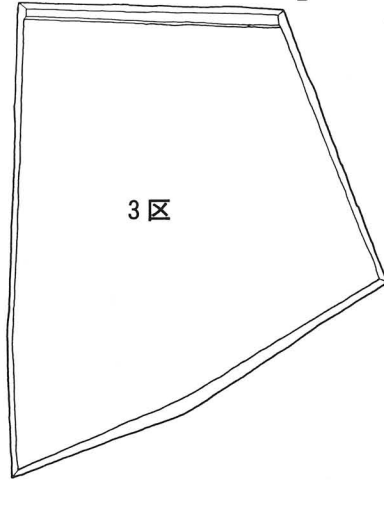
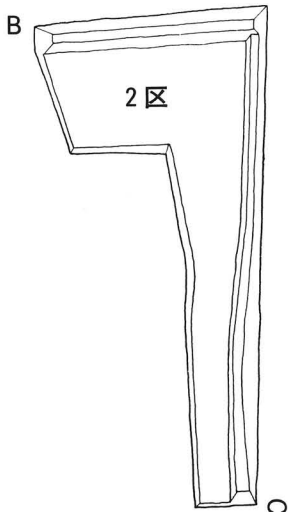
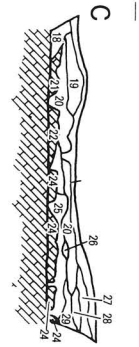
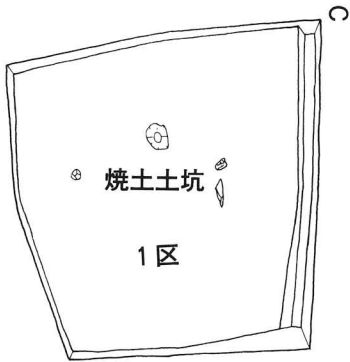
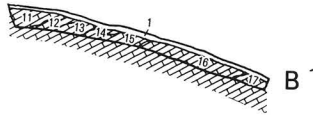
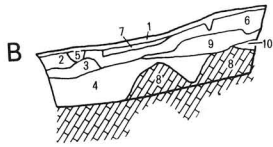


PL. 2 大井城跡調査区位置図



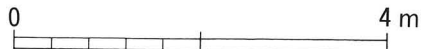
PL. 3 大井城跡調査区平面図・断面図

48.200m



48.200m

- |                                    |                                   |                                 |
|------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 5YR 1.7/1 黒色土 (表土)               | 13 7.5YR 6/8 橙色シルト (地山)           | 26 2.5YR 5/8 明赤褐色土              |
| 2 5YR 5/8 明赤褐色土                    | 14 2.5YR 5/8 明赤褐色シルト (地山)         | 27 7.5YR 6/6 橙色土                |
| 3 7.5YR 5/8 明褐色土                   | 15 5YR 6/8 橙色シルト (地山)             | 28 5YR 5/6 明赤褐色土                |
| 4 7.5YR 5/6 明褐色土<br>(ブロック土を多量に含む)  | 16 5YR 5/8 明赤褐色シルト (地山)           | 29 5YR 5/8 明赤褐色土                |
| 5 5YR 5/4 にぶい赤褐色土                  | 17 5YR 7/2 明褐灰色シルト (地山)           | 30 5YR 5/8 明赤褐色土                |
| 6 5YR 5/8 明赤褐色土                    | 18 2.5YR 4/8 赤褐色土<br>(木の根カクラン)    | 31 7.5YR 6/8 橙色土<br>(地山ブロック含む)  |
| 7 5YR 9/8 赤褐色土<br>(ブロック土を微量含む)     | 19 7.5YR 5/8 明褐色土                 | 32 5YR 6/8 橙色土                  |
| 8 7.5YR 8/8 黄橙色シルト (地山)            | 20 7.5YR 4/6 赤褐色土<br>(有機物、炭を少量含む) | 33 5YR 5/8 明赤褐色土                |
| 9 5YR 5/6 明赤褐色土<br>(ブロック土を多量に含む)   | 21 7.5YR 7/6 橙色シルト (地山)           | 34 5YR 5/4 にぶい赤褐色土<br>(木の根カクラン) |
| 10 7.5YR 6/8 橙色シルト<br>(ブロック土を少量含む) | 22 5YR 6/8 橙色シルト (地山)             | 35 5YR 8/3 浅橙色シルト (地山)          |
| 11 7.5YR 7/3 にぶい橙色シルト (地山)         | 23 5YR 5/8 明赤褐色土<br>(地山ブロックを微量含む) | 36 5YR 5/8 明赤褐色シルト (地山)         |
| 12 5YR 5/8 明赤褐色土 (地山)              | 24 7.5YR 7/8 黄橙色シルト (地山)          | 37 7.5YR 7/8 黄橙色シルト (地山)        |
|                                    | 25 2.5YR 4/6 赤褐色土<br>(炭を微量含む)     | 38 7.5YR 8/6 浅黄橙色シルト (地山)       |



PL. 4 大井城跡調査区位置図



大井城跡（東から）



1区（北東から）



2区 (東から)



3区 (東から)





1区 (北から)



2区 (東から)



2区 (西から)



3区 (北から)





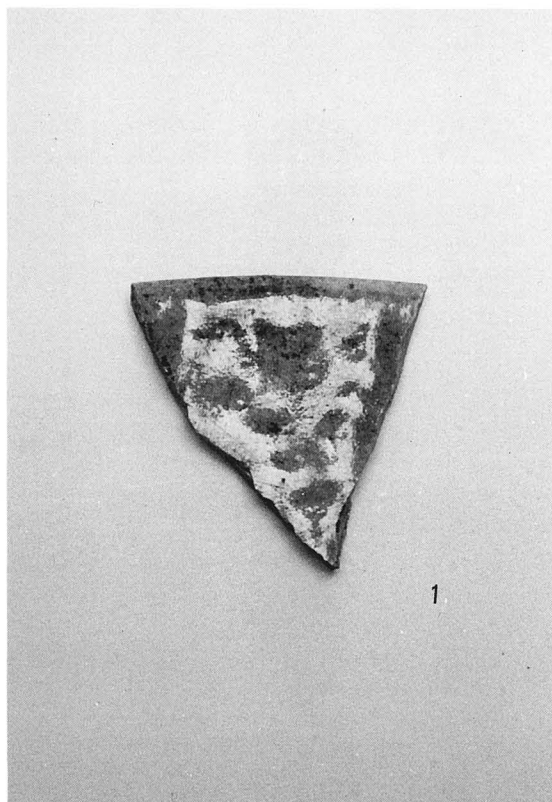
焼土土坑（北から）



焼土土坑（東から）

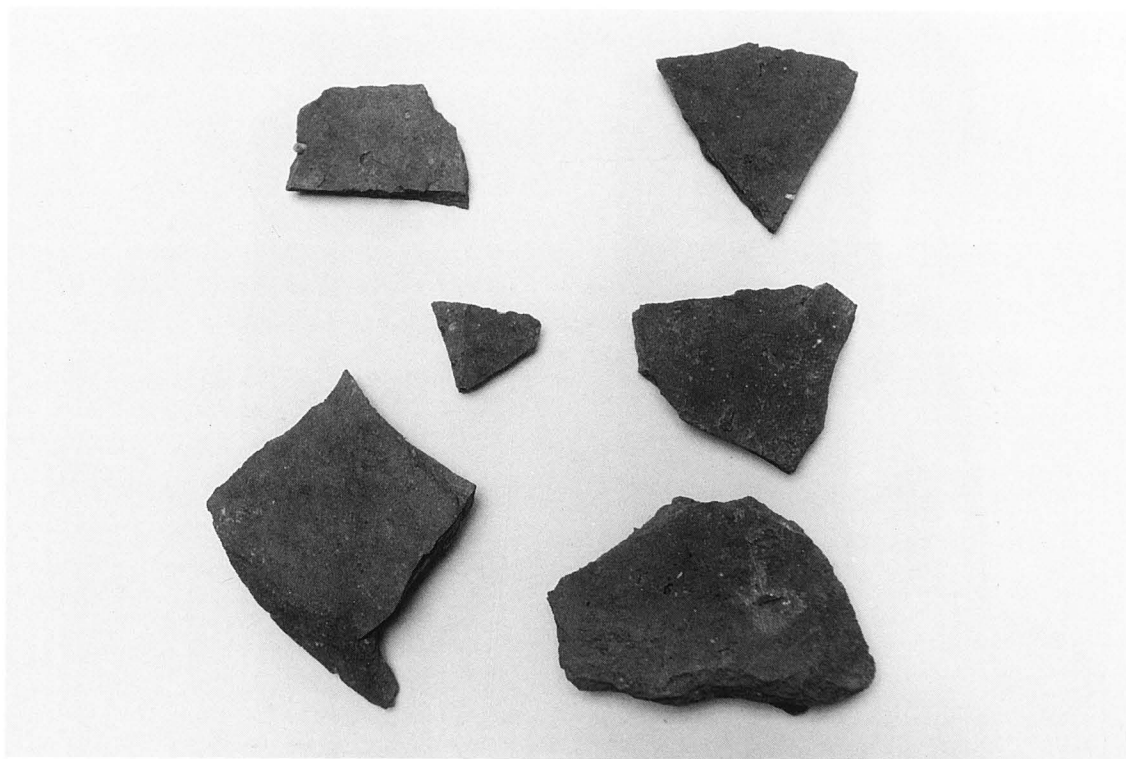


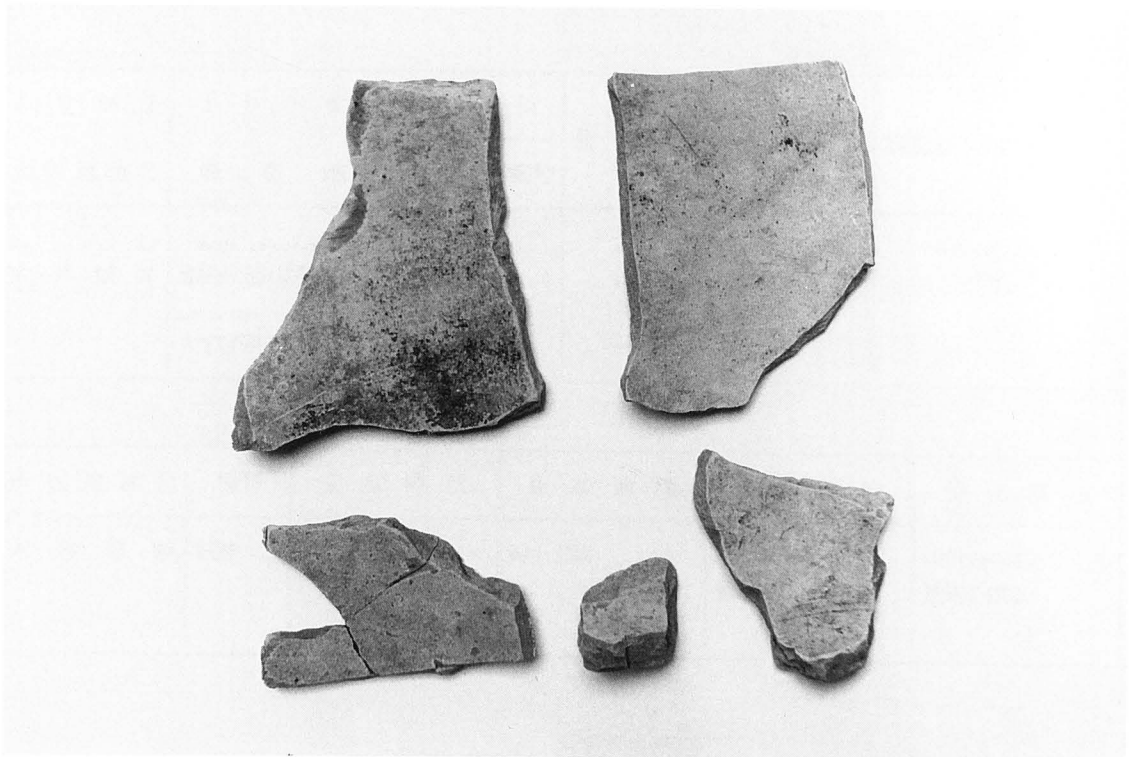
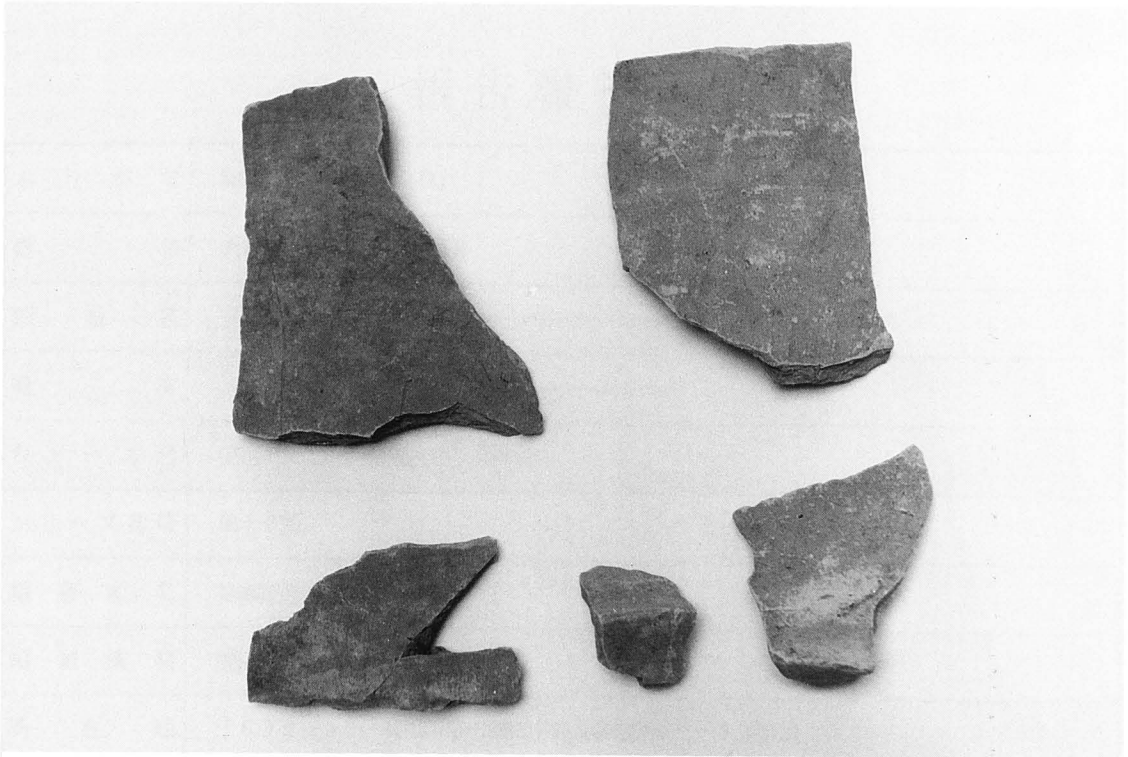
遺物出土状況（北から）











# 報告書抄録

ふりがな	おおいじょうせきおつくちようざくしよ							
書名	大井城跡発掘調査報告書II							
副書名	_____							
巻次	_____							
シリーズ名	斐川町文化財調査報告							
シリーズ番号	第16集							
編著者名	松本堅吾・陰山真樹							
編集機関	斐川町教育委員会							
所在地	〒699-05 島根県鏡川郡斐川町大字荏原町2172番地							
発行年月日	西暦 1996年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
おおいじょうせき 大井城跡	しまねけん ひかわぐんひかわちょう 島根県鏡川郡斐川町 おあさびやくとう 大字学頭	32401	4	35度 23分 7秒	132度 52分 23秒	951121～ 951207	50㎡	観音像建立工 事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大井城跡	城跡	室町	焼土土坑	瀬戸系灰釉平茶碗・ 鉄釘など		中世の所産といえる 遺物を確認		

---

---

大井城跡発掘調査報告書Ⅱ

1996年3月

発行 斐川町教育委員会

島根県簸川郡斐川町荘原 2172

印刷 株式会社 報光社

島根県平田市平田町 993

---

---